

令和7年9月1日

中標津町議会議長 後藤 一 男 様

中標津町議会議員 阿部 隆 弘

研 修 報 告 書

以下の研修について、次のとおり報告します。

- 1 研修名 議会広報研修会
- 2 研修先 北海道町村議会議長会
- 3 研修日 令和7年8月19日（火）
- 4 研修事項 講演 「議会の『見える化』 & 住民との『信頼築く』
議会広報の基本と編集」
議会広報クリニック（増毛町議会・苫前町議会・天塩町議会）
参考資料（仁木町議会・鷹栖町議会）
- 5 成果

議会広報優秀紙の共通点として、①目標の組織的検討、「編集方針」をもって実践されている。②住民の意見・要望・提案が実名・顔写真付きで加えられ、住民が議会とつながるキッカケとなる「企画構成」が増えている。③関心の高い議案の「ピックアップ方式」により住民の「声」や「一言」が加わり、読者との一体化や「自分ごと」になっている。④問題提起型の「特集」や「広聴企画」が増えている。⑤見出しやビジュアル（写真など）で読者の視線誘導が計算された編集となっていることが、「議会だより」の今後のあり方を考える機会となりました。今後、「編集方針」について検討が必要と感じました。

「読まれる議会だより」の企画・編集では、興味・関心を喚起する企画テーマ・切り口として、①読者ニーズ（住民が知りたいこと）に応える。②特集（独自のテーマ）重要課題プラスシリーズ・連載で情報共有を図る。読まれる紙面への編集スキルの向上として、①目出つ、引き付ける「見出し」②バランスのある紙面レイアウト③解りやすい記事で読みたくなる紙面を目指す。

議会広報の進化への4つの方向性とは、①住民目線の企画編集②「読みたくなる情報誌」へ③住民参加・協働の広聴企画④他の広報媒体との連携・補充・分担などを駆使との説明をいただき、④では本町もHPとQRコードでの連携を行っていることが一つ確認できました。

議会広報クリニックでは、「説明責任」「議事公開・政策決定プロセス」「議会活動の「見える化」「広聴企画・民意反映、双方向性」「ページネーション」「分かりやすさへの細やかな配慮」「迅速性」を評価の目安・基準としていることを基に各議会だよりについて、評価をいただきました。

増毛町：手に取りたくなる表紙、「おすすめコンテンツ」の表示、「レイアウト」見やすさ・インパクト、「読みたくなるレイアウト」、「写真キャプションを的確に」との評価を説明いただきました。

苫前町：「表紙コンテンツは内容見出し」「本文導入部の見せ方」「写真キャプションを的確に」「伝わる広報へ編集のスキルアップ」「企画をカタチにラフ・レイアウト」「読みたくなるレイアウト」が必要との評価をいただきました。

天塩町：高評価をいただきました。

※参考資料「仁木町」「鷹栖町」の議会だよりが示され、参考とするよう勧めていただきました。

議会だよりの編集にあたり、講師の指摘事項について、各町の議会だよりと評価の内容、議会広報の基本と編集を参考になかしべつ議会だよりの検証を行い、「読まれる議会だより」を目指し、各委員と意見を交わし、編集に取り組んでいきたいと思いました。